

# 研究実施のお知らせ

2023 年 12 月 28 日 ver.1.2

2026 年 7 月 5 日 ver.2.0

## 研究課題名

Potentially avoidable transfers は主観的にも回避可能と評価されるのか

## 研究の対象となる方

2026 年 1 月から 2026 年 6 月の間に島根大学医学部附属病院救急外来に他院より紹介され受診された方

## 研究の目的・意義

重症患者の診療において、ある施設で対応困難と判断された患者は、より高次の医療機関への転院搬送を行っています。日本では転院搬送の手段として救急車の他に、自家用車を含む通常の交通機関、病院保有の救急用自動車などがあります。しかし、重症患者の転院搬送は救急車により搬送が多く、年々その件数は増加しています。

中には結果的に転院搬送する必要がなかったにも関わらず搬送された事例もあり、不適切な転院搬送に救急医療のリソースが使用されている場合があります。「潜在的に回避可能な搬送」として Potentially avoidable transfers (以下 PAT)という概念があります。

この概念は提唱されて以降その妥当性については十分に議論されていません。本研究では PAT を満たす患者群がコンサルタント医から見ても主観的に転院が回避可能と判断されるかどうかを評価・検討します。

必要のない転院搬送を減らすことにより移動による急変リスクの減少や医療費の削減を目指します。

## 研究の方法

救急科専門医 2 名により転院の妥当性について主観的に評価を行う。

### 【収集項目】

- 救急科専門医から見た転院の妥当性を点数評価
- 来院時 Vital signs (体温、血圧、脈拍数、呼吸数、酸素飽和度)
- 採血データ
- 来院方法
- 来院時間

- 転送距離
- 最終的な診断名
- 転帰（入院、帰宅、その他）など

この研究に参加された場合、診療情報など、この研究に関するデータ等は、個人を特定できないように記号化した番号により管理します。あなたの個人情報個人が特定できる形で使用することはありません。

### 研究の期間

2024 年 7 月 5 日～2028 年 3 月

### 研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。また、結果の透明性の確保のため、解析に用いた個別データを公開する可能性もありますが、その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

### 研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学地域未来協創本部 地域医学共同研究部門 岩下 義明

### 情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2027 年 3 月末までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

### 相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学地域未来協創本部 地域医学共同研究部門 岩下 義明

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2192